

世界中に友だちをつくる日。 “ KAMAISHI KIDS TRY ”

釜石キッズラグビー国際交流プログラム ～ 2021 年度の開催要綱 ～

1. 活動の趣旨

“ラグビーのまち釜石”の鵜住居地区で、子どもを中心とした国内外の人々との交流の場をスポーツを介して創り、子どもたちの成長（異文化交流、防災学習等）やまちの活性化（小中学校を舞台としたイベント実施、つながり人口の増大、復興と継承の営み等）の一助にしたいと考えています。地域に根ざした持続的な活動とすることで、鵜住居地区がスポーツのまちとして発展する礎を築き、連携や効果波及の分野や範囲をだんだんと拡大させていくことで、釜石市及び三陸沿岸域や岩手県の地方創生の原動力になることを目指します。



2. プログラムの概要

国内外の子どもが参加するラグビー大会を中心に、国際交流を図るコンテンツを組合せたプログラムを、毎年夏～秋頃に釜石市で定期的に開催していきます。

- ・子どもたちのラグビー大会（スポーツを介した国際交流活動）
 - － ラグビーを通じて“国際的な視野を持ち、多様性を認める”能力を培う場を提供する。
 - － 大人も含めた多くの人々に、スポーツのすばらしさ、楽しさを伝える。
- ・交流イベント（複数国の交流・異文化理解、宿泊共同生活、住民他との多世代共同活動など）
- ・学習イベント（沿岸域の自然・文化に関わるワークショップ、鉄のまち関連の視察、防災学習など）

開催 3 回目の 2021 年度の開催に当たっては、ラグビーワールドカップ 2019 の釜石市のレガシー（伝承遺産）の活用を考え、東日本大震災から 10 年が経過したまちづくりに想いを込めて、企画準備を進めてきましたが、昨年度から続くコロナ禍のもと、子どもたちの参加形態を変えて開催することにしました。

なおプログラム内容に関しては、釜石の地域活動を推進する諸団体との連携を強化し、新たな試みにもトライします。

3. 3 回目となる今年度の開催内容

3-1 活動名称・実施の体制

- ・活動名称：「釜石キッズラグビー国際交流プログラム “ KAMAISHI KIDS TRY ”」
- ・主催：一般社団法人子どもスポーツ国際交流協会（略称 KSE）
- ・運営：KAMAISHI KIDS TRY 2021 運営チーム
KSE、一般社団法人三陸ひとつなぎ自然学校、株式会社かまいし DMC、釜石市・鵜住居地区の地域組織、協賛企業 他
- ・後援(予定)：釜石市、岩手県、公益財団法人日本ラグビーフットボール協会
- ・協賛：クラシエホールディングス株式会社
東洋証券株式会社、ストックウェザー株式会社、特定非営利活動法人スクラム釜石、株式会社ファイナンシャルブレインシステムズ 他
- ・協力(予定)：釜石シーウェイブスジュニアラグビースクール、一般社団法人根浜 MIND、宝来館

3-2 開催日程・場所

- ・2021 年 8 月 21 日(土) ~ 22 日(日)
- ・釜石市鶴住居地区 (釜石鶴住居復興スタジアム、根浜シーサイド、根浜海岸、釜石市民体育館)

3-3 参加者・プログラム内容

例年通り、キッズラグビー大会と国際交流/体験学習イベントを実施する。

参加者はコロナ禍の中での開催となるため以下の通りとする。

- 釜石市に集まる子どもたちは釜石市及び隣接町(大槌町等)から。
海外(台湾)や国内他都市(広島他)の子どもたちはオンラインによる国際交流イベントに参加する。
- 釜石市及び大槌町の小学生 4~6 年生の子どもたち約 25~30 名(予定)
- 台湾の小学生約 20 名、国内他都市は広島の小学生約 10 名(予定)

[キッズラグビー大会]

- 会場は、釜石鶴住居復興スタジアム及び根浜シーサイドを使用
- 1 日目(土曜日)に練習・予選、2 日目(日曜日)に決勝・順位決定戦を実施

[国際交流/体験学習イベント]

- 三陸の自然文化体験(海のアクティビティ)、防災学習(防災運動会)を鶴住居地区で実施
- 台湾と釜石及び広島の小学生がオンラインで国際交流
1 日目のテーマは“異文化体験”、2 日目のテーマは“お菓子で交流”(クラシエ協力)

<プログラム予定>

| 8/21(土) | 1 日目 | 8/22(日) | 2 日目 |
|---------|--------------------|---------|--------------------|
| 9:00 | 集合、開会式 | 7:00 | 起床 |
| 10:00 | 防災運動会<市民体育館> | 9:00 | 海のアクティビティ<根浜海岸> |
| 13:00 | オンライン国際交流 ~異文化交流~ | 13:00 | オンライン国際交流 ~お菓子で交流~ |
| 14:30 | ラグビー練習・試合<根浜シーサイド> | 14:30 | ラグビー大会<鶴住居復興スタジアム> |
| 17:30 | BBQ、キャンプファイヤー | 16:30 | 閉会式、解散 |

3-4 運営について

- 本プログラムの運営予算
 - 運営費は、企業の協賛金、寄付金、助成金、事業に伴う収入などで充当する。
 - 参加者からプログラム参加料(傷害保険加入料、宿泊・移動・食事代等の一部に充当)を徴収する。
- コロナ禍対策
 - 本プログラムの運営は釜石在住スタッフを中心に実施する。岩手県外から釜石市に入る運営スタッフは、必要最小限の人数とし、全員 PCR 検査を受け陰性を確認したうえで参画する。
 - 運営全般においてコロナ対策マニュアル(JRFU マニュアルに準拠)を定め運営に当たる。

■本プログラムに関する問合せ先

向山昌利 (KSE 代表理事) 080-3256-0520 info@tkse.org
 濱島幸生 (KSE 特任理事・広報担当) 090-6007-5049 yukio.hamashima@gmail.com

《参考資料1》 これまでの開催実績

【2018年度_第1回】

- ・9/14(金)～9/16(日) 釜石、台湾、オーストラリアの小学4～6年生 45名
- ・釜石鶴住居復興スタジアム、鶴住居公民館、宝来館、県立陸中海岸青少年の家
- ・被災体験学習・鶴住居小学校交流会、三陸自然体験(沢登り)・大槌町視察・タグラグビー予選・山田まつり、知育菓子教室・タグラグビー大会(順位決定戦)
- ※“復興「ありがとう」ホストタウン”(釜石市・オーストラリア)の活動と連携。

【2019年度_第2回】

- ・8/16(金)～8/18(日) 釜石、熊本市、台湾、フィジー(日本在住)の小学4～6年生 32名
- ・釜石鶴住居復興スタジアム、鶴住居公民館、宝来館、県立陸中海岸青少年の家
- ・被災体験学習(いのちの道プログラム)・自然体験、交流イベント・タグラグビー予選・花火・サッカー交流、知育菓子教室・タグラグビー大会(チーム練習・順位決定戦)
- ※プログラムの一環として「釜石・鶴住居のまちづくりワークショップ」を7/7(日)に実施。
(鶴住居地区生活応援センターとの共催)
- ※公益財団法人さんりく基金の「地域コミュニティ再生・活性化支援事業」に採択され助成を受ける。

《参考資料2》 本プログラムの説明

【プログラムの目指すところ】

■ 本活動の展開方向／プラットフォーム形成について

本プログラムは、「釜石/鶴住居×子ども×スポーツ(タグラグビー)×国際交流」の場や仕組みの運営を中核に据えるものですが、徐々にその活動範囲を広げていく、または他主体との連携・協力によって対象テーマを増やしていくとしています。このプログラムを核とした“地域活性化のプラットフォーム(活動基盤)”を形成し、地方創生に寄与したいと考えています。

■ 釜石の子供たちにとっての本プログラム

子どもの成長をサポートし、その子どもたちと共に、釜石・鶴住居そしてより広くのまちづくりに関わっていきます。本プログラムは、地域を活性化させる多分野の諸活動の基盤(地域活性化プラットフォーム)の形成に向けた“第一歩”とすることを考えています。

【プログラムのロゴマーク、スローガンについて】



ラグビーのまち釜石”の鶴住居地区で、子どもを中心とした国内外の人々との交流の場をスポーツを介して創り、子どもたちの成長(異文化交流、防災学習等)やまちの活性化(小中学校を舞台としたイベント実施、つながら人口の増大、復興と継承の営み等)の一助にしたいと考えています。

子どもたちは本プログラムを通じ、友だちの言葉に耳を傾け言葉をつなぐ、愛をこめてパスをしボールをつなぐ、同じゴールを目指す、ひとつの答えを導き出す、といったいろいろな体験をします。

その時に経験して欲しいことは、「自分で考え」、「自分で走り」、「自分で答えを決める」ことであり、そしてその先に小さくとも「突然道が開ける感覚を覚える」ということです。

これからたくさんの困難に向かうとき、今回の経験が、子どもたちにより多くの選択肢を与え、たくさんの仲間が世界中にいることで支えられ、自ら考え、決めること、を恐れることなく、どんなことにもTRYして欲しい。

そんな願いを込めています。

【運営組織、主催者について】

- 本プログラムは、一般社団法人子どもスポーツ国際交流協会、釜石市メンバー、協賛企業担当などから構成する「KAMAISHI KIDS TRY 2021 運営チーム」が企画・運営しています。
- 主催者の一般社団法人子どもスポーツ国際交流協会（THE KIDS SPORTS EXCHANGE、略称 KSE）は、スポーツを活用するさまざまな活動を通じて、健全な心と体を生み出し、活力に満ちた社会をつくり、スポーツが持つ価値を発信して、日本だけでなく世界中の人々が幸せな生活を獲得できる世界の実現に貢献することを目的に2009年に設立されました。子どもたちを対象とするスポーツ国際交流の企画運営と調査研究を実施しており、主に日本～タイ、日本～台湾の間での「キッズラグビー交流事業」を開催しています。
 《KSE ウェブページ》 <http://www.tkse.org/>

《代表理事》 向山 昌利（流通経済大学 スポーツ健康科学部 准教授）

熊本県出身、元ラグビー日本代表、同志社大学～ワールド～NECグリーンロケッツにてプレー。ニュージーランド及び英国へのラグビー留学に加えて、日本代表バイスカプテン、日本A代表キャプテンとして国際舞台を数多く経験。現役時代から国際交流支援に積極的に取り組み、現役引退の2009年以降、スポーツを通じた国際交流や国際協力の実践と研究に従事している。主な活動実績は、日本各地-タイ-台湾のキッズラグビー交流(13回)、外務省及びスポーツ庁が連携して進める「スポーツ・フォー・トゥモロー」におけるアジアでのラグビー普及育成活動など。震災復興支援を契機に、釜石と台湾の小学生のラグビー交流活動を始め、数年前から釜石のまちづくりとスポーツの関係をテーマとした調査研究を実施中。現在、日本ラグビーフットボール協会/国際協力部門長、国際協力機構/技術専門委員(ラグビー)などを務めている。

《特任理事》 濱島 幸生（総合コンサルティング会社勤務）

横浜在住の現役サッカープレイヤー。ラグビーは国立競技場最後のドリームマッチに出場、観戦は「雪の早明戦」の頃から。国土構造・都市/地域活性化などの政策立案支援（運輸省「東北沿岸域振興ビジョン」、地方自治体「総合計画」、「空港を核とした街づくり構想」、「新幹線開業効果調査」など）を数多く手掛け、Internetの萌芽期からコミュニティビジネス分野のコンサルティング、モバイル端末・電子マネー等の先端IT活用やIoT関連の新規事業の立上げに従事。東北震災後に復興支援等のプロボノ活動に参画し、横浜・野毛山地区で古民家改修による“多世代・多国籍の交流空間”『CASACO』を共同代表として企画運営。2015年9月の震災復興「くらくらツアー」に参加し、釜石・鶴住居神社の御神輿再建時のお祭りを体験。いま地方創生(東北沿岸域等の持続的な経済活動)の仕組みづくりを準備している。

○KSEの活動実績

一般社団法人子どもスポーツ国際交流協会(KSE)のラグビーを介した国際交流の活動実績は以下の通りです。

■ 日タイ・キッズラグビー交流

タイの子どもたちを日本に迎えて、ラグビーを通じた交流活動を実施しています。

- 目的：ラグビーを通じた異文化理解
- 協力：Thai Barbarians Co. Ltd. (タイ・ラグビー関連企業)
- 内容：ラグビー試合交流、合同合宿／ホームステイ
- 開催年/回数：2009、2012～18、全8回
- 場所：千葉県(NEC安孫子事業所)、茨城県(流通経済大学)
- 参加者：タイの小学5～6年生、関東周辺の小学5～6年生
- 期間：2泊3日

■ 日タイ・キッズラグビー交流 in バンコク

日本の子どもたちがタイを訪れ、ラグビーを通じた交流を行っています。タイのラグビー関係者の現地協力を得て開催しています。

- 目的：ラグビーを通じた異文化理解
- 協力：Thai Barbarians Co. Ltd. (タイ・ラグビー関連企業)
- 内容：ラグビー試合交流、合同合宿
- 開催年/回数：2013、2016、全2回
- 場所：バンコク (Vajiravudh College)
- 参加者：関東周辺の小学5～6年生、タイの小学5～6年生
- 期間：3泊4日

■ 日台・キッズラグビー交流 in 台北

日本の被災地の子どもたちが台湾を訪れ、スポーツを楽しみ、ラグビーを通じた国際交流を行っています。

- 目的：震災復興支援
～ひと時でも楽しい時間を提供する～
- 協力：ファイブワズ (台湾日本人会・ラグビー部)
- 内容：ラグビー試合交流、合同合宿
- 開催年/回数：2012、2014、2017、全3回
- 場所：台北
- 参加者：岩手県釜石シーウェイブスJr、
熊本県の小学生ラグビー選手(2017年のみ参加)、
台北の小学5-6年生
- 期間：3泊4日